



“鎌倉楽しむ会・江戸東京歩き”

奥浅草・三社祭・浅草寺

開催日 令和7年5月17日(土)

集合時間 午前10時30分

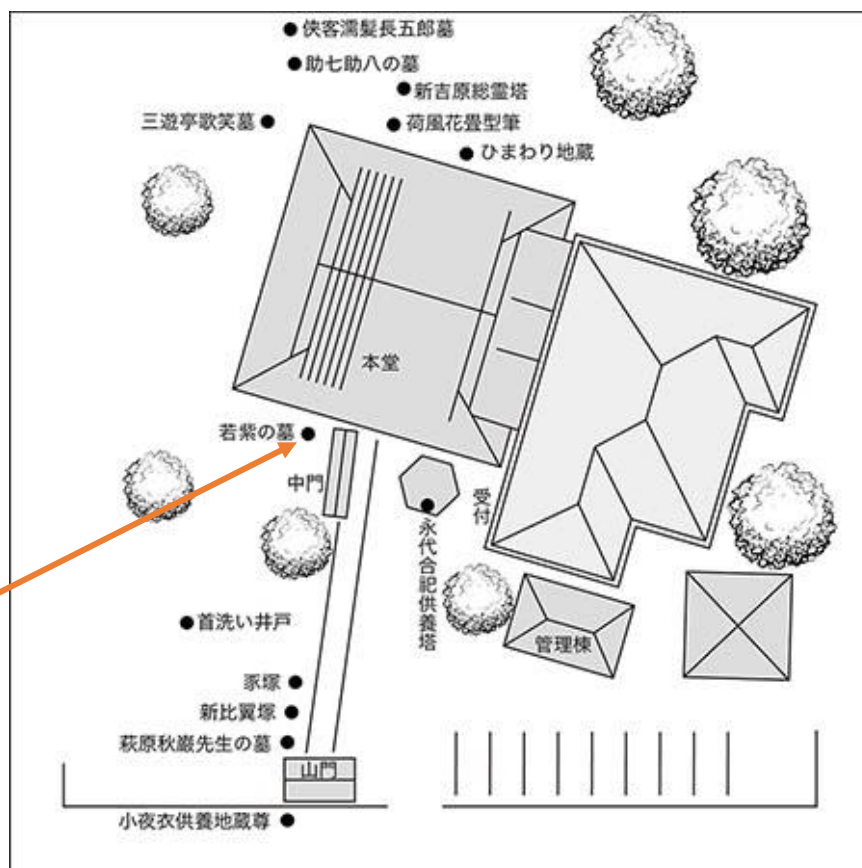
集合場所 日比谷線三ノ輪駅

参加料金 500円(ガイド資料・保険代含む)



コース 浄閑寺～目黄不動尊～千束稻荷社～龍泉寺～大音寺～飛不動
～一葉記念館～お齒黒溝跡～見返り柳～吉原大門跡～吉原神社～弁財天
～千束通り商店街～浅草ひさご通り～花やしき～浅草寺

1, 浄閑寺



* 浄閑寺の説明

浄土宗の寺院。明暦元年(1655)の開創で、寛保2年(1742)に山門等が建立されました。新吉原の遊女らの供養を行ってきた寺として知られています。安政2年(1855)の大地震で犠牲となった遊女たちの遺体が投げ込み同様に葬られたことから、通称「投込み寺」とも呼ばれています。「新吉原総霊塔」が慰霊のために建てられました。

そこには、「**生まれては苦界 死しては浄閑寺**」と刻まれた「花又花酔」の句がはめ込まれています。

小説家の永井荷風は、遊女の暗く悲しい生涯に思いをはせて、たびたびこの寺を訪れていました。荷風の「筆塚」と「詩碑」は、その縁で建てられました。毎年、4月30日に荷風忌が行われます（荒川区 HP より）

* 若紫のお墓 *

明治36年の8月。当時の吉原では最高ランクの「花魁」で、22才であった。あと数日で大店の御大尽に身請けされ幸せな生活が待っていた。しかし、若い遊女と心中しようとした若者が、間違っ「若紫」を襲い、自分もその場で言切れてしまった。

なじみの客、廓の旦那衆、その他の遊女、下働きも加って、このお墓が建立された。

2, 目黄不動尊



養光山金鍔山 永久寺といい、天台宗のお寺です。開創は室町時代初期の南北朝期(14世紀)です。江戸時代の寛永年間(1624-43)の中頃、東海道など五街道が整備されますと、街道の道中安全を祈願することが幕府によって命じられました。

その時、上野寛永寺の天海大僧正の発願によって、江戸府内の由緒ある古刹が五色不動として五街道沿いに定められました。

その際、南北朝以来の古刹であり、また日光街道(今の昭和通り)に面した永久寺が目黄不動尊として指名されたのです。

現在の永久寺は、大関横丁交差点のすぐそばで、交通量が激しく騒音も大きいのですが、一步山門を入りますと樹齢千年を超える松の木が、御仏と共に詣りに訪れる方々を静かに迎えています。(永久寺 HP より)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① 目黒不動 瀧泉寺 (目黒区下目黒) | ② 目白不動 金乗院 (豊島区高田) |
| ③ 目赤不動 南谷寺 (文京区本駒込) | ④ 目青不動 教学院 (世田谷区) |
| ⑤ 目黄不動 永久寺 (台東区三ノ輪) | ⑤ 目黄不動 最勝寺 (江戸川区平井) |

3, 千束稲荷神社



創健年代は不詳であるが、江戸時代の寛文年間(1661-73)に創建された。祭神は倉稲魂命・素戔鳴尊である。

樋口一葉は、明治 26 年(1893)から翌年にかけて竜泉寺町 368 番地(現竜泉 1 丁目)に居住しており、千束稲荷神社の近くであった。そのため「たけくらべ」での「美登利と長吉」が喧嘩する祭のシーンは、ここ千束稲荷神社の例祭がモデルになっているとされている。(ウィキペディアより)

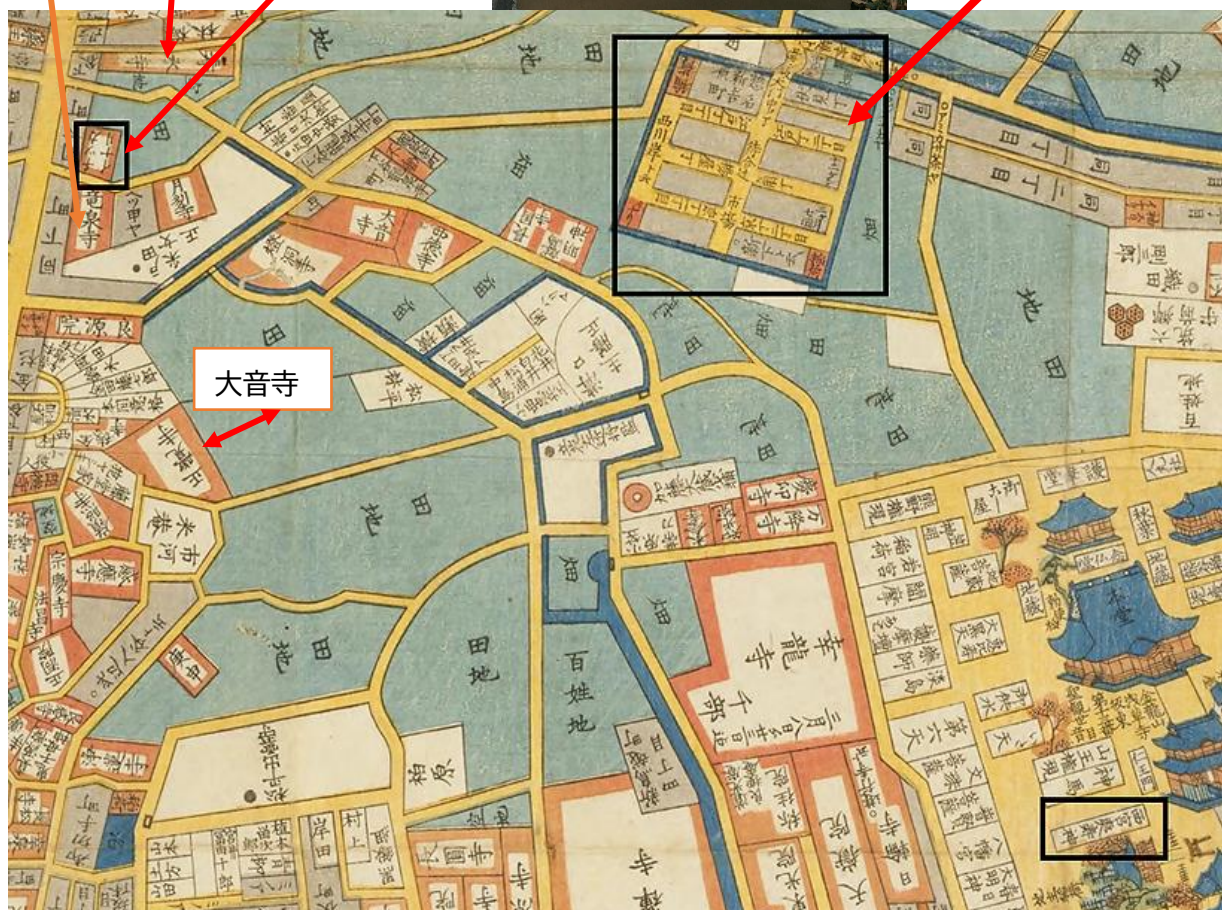


千束稲荷神社

龍泉寺

永久寺

新吉原



4, 龍泉寺



創建年代は不明ですが、戦国時代後期の天正年間(1573-90)に「法印深盛」僧正が中興したという古刹です。江戸時代以前は、寺領は広大で、龍泉寺村を形成し、現在の龍泉寺町の由来ともなっている。

徳川家康が江戸入府した(1590)後は、徳川領(天領)となりましたが、正保年間(1644-47)には、天海大僧正の寛永寺の寺領となった。

それ以来、千束稲荷神社の別当寺となり明治維新を迎え、寺領は縮小したが、竜泉寺町の町名は残った。宗派は真言宗智山派です。

5, 大音寺



大音寺は、正式には「正覚山響流院大音寺」といい、京都の浄土宗総本山「知恩院」の末となっている。

創建年代は詳らかではないが、芝増上寺の「二十六世森譽暦天上人」(享保十年-1725)が、中興・開山したと伝わっています。

一葉の「たけくらべ」の冒頭に「大音寺前」と「吉原遊郭」の位置関係を明確に描写しているという。

・「廻れば大門(おおもん)の見返り柳いと長いけれど、お歯ぐろ溝に燈火うつる三階の騒ぎも手に取る如く・・・」

要するに、この「大音寺前」は吉原遊郭の裏手に隣接する町で、廓の内ではなく、吉原遊郭に関連する商人町であった。

6, 飛不動



創健は、室町時代後期の、享禄 3 年(1530)、天台宗本山派の「正山上人」が「修験系天台宗」として開山した。「正山上人」は修験道の聖地の熊野から吉野に至る「大峯山」で修行後、諸国を巡歴し、この龍泉の地で村人に宿を施してもらった。

その時、上人は、一筋の光と共に立ち昇る「龍」の夢を見て、この「龍の夢」は「お不動様」の加護を感じ得たのです。

そこで、上人は投宿の世話をしてくれた村人達の息災延命と自らの旅の安全を祈って「お不動様」を刻み、この地に祠を建て奉安し、お寺となし、寺号は、竜が光を放ち空へ昇った霊夢に従い、「龍光山三高寺正寶院(りゅうこうざん さんこうじ しょうぼういん)」と名付けられました。

以来、旅人の守り本尊として、また「厄災消除」の祈願寺として信仰されています。

現在は海外旅行のお守りとしてお詣りする方々が多いようです。

7, 一葉記念館



樋口一葉

東京都内幸町の下級役人樋口則義の次女として明治5年(1872)に生まれ、幼少より利発で学校の成績は、常に優秀で、卒業は首席であった。

明治18年(1885)兄の死に逢い、相次いで父も死去していった。そのとき、戸主は一葉となりましたが、父の事業失敗による借財が大きく残り、生活は奈落に落とされていった。

明治23年(1890)家賃の安いと言われた、本郷菊坂(文京区)に引っ越し、母と妹の3人で針仕事など賃仕事をするが、それでも賄えず、方々に借金を繰り返す苦しい生活を強いられていた。また、建物が現存する「旧伊勢屋質店」にもしばしば通っていたという。

明治24年(1891)数え年20才で小説を書き始め「半井桃水」に師事する。

明治26年(1893)7月、吉原遊郭に近い下谷龍泉寺町(現在の竜泉1丁目)に駄菓子屋を開く。しかし、翌年の1月には、近所に同業者が開業したため、一葉の駄菓子屋と競業となり、一葉の店は次第に苦しくなり閉店に追い込まれてしまう。

明治27年(1894)5月に、今度は本郷福山町(現在の文京区西片1丁目)に引っ越し、翌28年1月、小説「たけくらべ」を7回にわたり発表し、その後次々と作品を発表していく。

明治29年(1896)に「たけくらべ」を「文藝倶楽部」に全文が掲載されると「森鷗外」や「幸田露伴」に、一葉の作品は高く評価したのです。しかし、その一葉に病魔の肺結核がのしかかり、森鷗外が当代随一と言われる医師団を往診に向かわせたが、こと既に末期症状と診断され、この年(明治29年)11月、24才6ヶ月の若さで逝去されるのです。

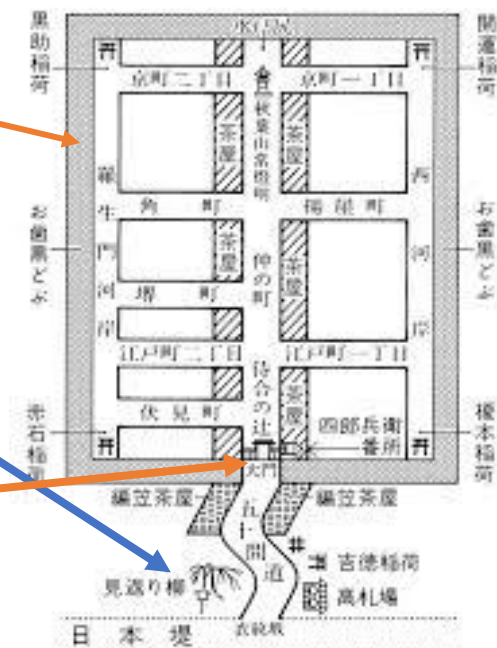
8, お歯黒溝跡

幅 3~9m
深さ 2m

9, 見返り柳

10, 大 門

新吉原見取り図



【吉原と新吉原】

江戸時代初期には、遊女屋が集まって一区画になっている廓というものはなく、遊女屋が各所に散在していた。しかし、「庄司甚左衛門」ら遊女屋から遊郭建設の請願が出され元和 3 年(1617)、幕府がそれを認可。翌4年、日本橋葺屋町の東側に隣接した二町四方の土地(現在の中央区人形町周辺)で営業が始められた。この遊郭が「吉原」である。

この遊郭は、明暦2年(1656)、江戸幕府より、浅草裏の日本堤への移転を命じられた。理由は、江戸の市街地の拡張、あるいは風紀上の問題などが考えられている。これには遊女屋たちは、浅草日本堤は江戸の外れであるとして、移転の撤回を嘆願したが聞き入れられず、日本堤への移転を決めた。翌3年、江戸の市街地は正月の大火(明暦の大火)で焼け、吉原も類焼。吉原は、6月に移転が命じられ、8月からは新しい土地での営業を開始している。

新しい遊郭は「新吉原」と呼ばれ、旧吉原は「元吉原」と呼ばれるようになったが、一般的には、新吉原は、そのまま吉原と呼ばれた。以後、江戸時代を通じて、この土地で江戸にある唯一の公認の遊郭として営業が続けられることになる。

新吉原は、移転時の条件で、夜の営業ができることとなり、土地の広さは五割増しの三町四方が与えられたため、元吉原より広くなった。廓の周囲は「おはぐろどぶ」と呼ばれた堀がめぐらされ、廓の入口は「大門」一か所だけであった。

かお、元禄ごろの浮世草子「傾城色三味線(けいせいいろしゃみせん)」では、吉原移転後すぐの遊女の人数は総数1750人とされているが、享保6年(1671)の調査では、遊女 2105 人、禿941人となっている。天保3年(1832)刊「江戸繁昌記」では「三千の娼妓」とされているが、三千というのは、遊女の人数を表すときの数の多さの慣用語でもあった。
(江戸文化歴史検定公式テキスト<上級編>江戸博覧強記)より

11, 吉原神社



12, 弁財天



「新吉原」には廓の守護神として五つの稲荷社が存在しました。大門の手前に「吉徳稲荷社」、さらに廓内の四隅には「榎本稲荷社」「明石稲荷社」「開運稲荷社」「九郎助稲荷社」がお祀りされていました。

その後、明治14年に、これら五つの稲荷社が合祀され、総称して「吉原神社」と命名されました。また、遊郭に隣接する「吉原弁財天」も合祀され、合計六社が合祀されおまつりされています。なお吉原弁天は吉原神社と「吉原弁財天本宮」の二ヶ所にお祀りされています。

13, 千束通り商店街



吉原から浅草寺へのなんとなく古くて新しさを感じる商店街!!

14, ひさご通り商店街



こてこての浅草らしさ！の雰囲気抜群！

15, 花やしき遊園地



日本で最初の嘉永6年(1853)開業の遊園地。いまだバリバリの現役です！

健康長寿のパワーポイントかも?!

完